

図書室だより
町民センター3階



【開室時間】火～金曜日 10:00～20:30 / 土・日曜日・祝日(29日) 10:00～17:00
【休室日】毎週月曜日、蔵書整理期間 4/14(火)～17(金)
※貸し出し冊数は4冊まで、期限は2週間です

今月のこの1冊

白洲次郎・正子の夕餉

牧山桂子 著



このところ、ドキュメンタリーやドラマ化されて白洲次郎の生き方に注目が集まっている。本書では、次郎とその妻正子の食卓を垣間見ることができる。

夫妻の長女である著者が、月ごとに献立を作り、簡単なレシピと骨董収集家の正子の器と布に盛りつけた料理が並ぶ。彼女の目を通した両親のエピソードやエッセイも楽しめる。

新しく購入した図書 (主なもの)

★ 一般書 ★

- ・「英雄の書 上・下」 宮部みゆき
- ・「骨の記憶」 榎 周平
- ・「沖田総司壬生狼」 鳥羽 亮
- ・「乱反射」 貫井徳郎
- ・「ボトスライムの舟」 津村記久子
- ・「空に唄う」 白岩 玄
- ・「思い出探偵」 鍋木 蓮

★ 児童書 ★

- ・「あめふりあつくん」 浜田桂子
- ・「オニロック」 中村 航
- ・「ハンスぼうやの国」バルプロ・リンドグレーン
- ・「すりばちの底にあるというボタン」大島真寿美
- ・「おつきさまのやくそく」 いたうひろし

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場

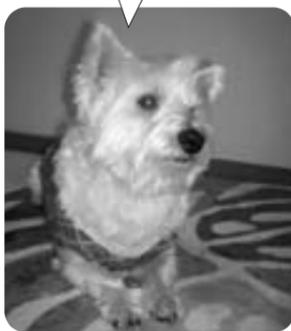
内容 「アイスクリーム屋さん」になろう
持ち物 はさみ、のり
日時 4月22日(水)15:00～
場所 町民センター2階 小会議室A
申し込みは直接図書室へ または ☎82-5221

◇おはなし会 (第2土曜日、第4木曜日)

今月15日(第3水曜日)は蔵書整理のため23日(木)に変更になります。
日時 4月11日(土)10:30～
4月23日(木)15:00～
場所 町民センター3階図書室
申し込みはいりません。

我が家のペット紹介
No.56

ロン(2歳)です。
とても臆病なので「弱虫」と笑われるんだけど…。
そんなにからかわないでよね!



後藤 秀樹さん宅(上延沢)

ペットのふんは飼い主さんが責任を持って持ち帰しましょう!

ご自宅のペットを紹介しませんか?
募集中です。詳しくは企画政策課まで。
☎ 84-0312

芝田 みち子 選

***文芸**

開成町俳句協会

恋の猫 篠突く雨を戻りけり
猫の恋流離う闇の深さかな
水温む池の底より動きあり
水温むどこまで続く飛行雲

遠藤 シズ子
波多野 すみ枝
鳥海 美代子
奥津 ちわき

俳句

のどやかに宮司の木靴地鎮祭
遠藤 マツエ

地鎮祭に宮司を招いた。おはらいをしてもらっているとき、宮司の履いている木靴が目に入った。宮司だけの独特な木靴。「長閑」が季語「のどやか」と上五に使ったことが技であった。

ともしび短歌会

すこやかに七十五歳を迎へたり
ロウソクの火を一気に消せた
府川 ハツエ

七十五歳の誕生日を元気で迎えられた喜びが、下句の「一気に消せた」に凝縮されている。これからも元気で生きてくださいと願いたくなる作品である。

短歌

孫よりの届きし紅の長寿梅は
潜けき庭に春の灯ともす
諸星 末子

言葉の一つ一つに幸せがにじみ出ている作品である。「長寿梅」「春の灯」そして「孫よりの」の表現に、私の心は捕らわれて穏やかな気持ちになった。

描けども画けぬあの雲を見つめあて
変はりてゆける形の愛ほし
湊 きみ子

真剣に物事と対峙している作者である。「あの雲」は、多くの事を連想させる言葉である。人間関係に重ねて鑑賞したら納得できると思う。

今月の昆虫はナンドロウ?



あしがらの彩り (完)

ミズカマキリ
～呼吸管で呼吸する～

この水生昆虫は、かつては開成町の水田や水路のよどみなどには、大抵の所に生息していました。この写真は、我が家の池にいたものの写真です。池にはアメンボが数匹いますが、このアメンボを前脚の鎌でつまみ、その体液を吸うのです。ミズカマキリの体は、細長い形をしていて、前脚は鎌で小形の昆虫を捕まえる脚になっていきます。中脚と後脚を上手に使って潜水し、水をかいて自由に泳ぐのです。また、体は4〜5センチの長さで、細長い胴体からさらに細長いしっぽが出ています。このしっぽは実は呼吸管で、水中にいるときは先端を水面に出して呼吸をしています。呼吸管の長さは体長またはそれ以上の長さがあります。水中を泳いでいるときは、シヌノーケルのように使い、呼吸しながら游泳するのです。出現時期は5〜10月で、春から夏にかけて水面より高い土中に産卵し、秋までの間に孵化して幼虫になり、小さな水生昆虫を食べて成虫になります。越冬は成虫で済みます。成虫は天気の良い日に水中から飛び出して新天地を求めたものがあります。我が家の池には捕まえてきた成虫を入れたことはありませんが、いつの間にか泳いでいました。今日では珍しくなったこの生き物を、静かに見守るようにしています。いつまでも元気でいてほしいものです。

※お子さんも読めるようにふり仮名を付けています。 写真と文 井上 義光

井上義光さん、ありがとうございました。
「あしがらの彩り」は今月で終了します

広報かいせいでは、足柄地域で観察できる昆虫を紹介する「あしがらの彩り」を平成17年4月号から連載してきました。この連載は、県自然観察指導員で、下島にお住まいの井上義光さんに、写真と文章をいただきましたが、今月号でこの連載を終了することになりました。

連載の終了にあたり 井上 義光
私が広報かいせいに執筆することになったきっかけは、昭和63年1月に町広報担当者から「まちの彩り」として植物の記事を書いていただきたいと打診があったことでした。以来、身近に見ることができ植物・鳥・昆虫の紹介をして20年が経過しました。執筆にあたっては、その生物の生態や人のかかわりを重視し、季節に合う種類を取り上げ、読者に興味を持っていただけるよう配慮してきました。また、写真はすべて私が撮影したものです。



「遠方まで見えるフィールドスコープは野鳥の観察には欠かせません」と井上さん